様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　７ 日現在

機関番号：１２１０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ０２６７２

研究課題名（和文）グローバル化された学校のマネジメントに関する日豪比較研究―IB認定校に着目して―

研究課題名（英文）Australia-Japan Comparative Study on Globalized School Management: Focusing on IB School

研究代表者
佐藤　博志（Sato, Hiroshi）

筑波大学・人間系・教授

研究者番号：８０３２３２２８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、グローバル化された学校におけるマネジメントのあり方を、日本とオーストラリアの比較分析を通して解明することを目的とした。本研究では、教育の国際化を進めている学校を対象に、IB認定校を対象に含めて調査・分析を行った。その結果を集約すると次のようなことが言える。第一に、グローバル化された学校の校長は、子どもたちの国際的なマインドの育成を希求していた。第二に、校長は、教職員との信頼関係を重視し、各教員に対する分散リーダーシップを発揮していた。第三に、校長は授業改善のためのリーダーシップを推進していた。第四に、IB認定校では、IBコーディネーターの役割が非常に大きかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
グローバル化された学校のマネジメントにどのような特徴があるかは、これまでの教育学、教育経営学等であまり論究されてこなかった。本研究は、このようなオリジナリティのある主題に取り組み、一定の知見を提示したため、学術的な意義があると考えられる。今後、学校のグローバル化は進んで行くと思われる。それは、児童生徒の属性の観点のみならず、教育内容の観点や、教員や校長の資質能力の観点から推測される。このような状況において、本研究は、校長のマネジメントの在り方を提示した。このような知見は、将来の校長研修や校長の専門的力量の在り方を考える際に示唆的であり、社会的な意義を有すると指摘できる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to elucidate the nature of management in globalized schools through a comparative analysis between Japan and Australia. In this study, schools that are promoting the internationalization of education were surveyed and analyzed, including IB accredited schools as targets. The following can be said to summarize the results. First, principals of the globalized schools were desirous of fostering an international mindset in their children. Second, the principals emphasized trust with the teaching staff and exercised distributed leadership over each teacher. Third, the principal promoted leadership for classroom improvement. Fourth, the role of the IB coordinator was very significant in the IB accredited schools.

研究分野：教育学

キーワード：校長　リーダーシップ　学校マネジメント　グローバル化　国際バカロレア　教育の国際化　日本　オーストラリア

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

今日、グローバル社会の進展を受けて、教育の国際化が政策的に進められている。IB 認定校などの国際化を進める学校はグローバル化された学校と位置づけられる。IB とは International Baccalaureate（国際バカロレア）の略称で、1968 年に設立された非営利団体 IB 機構が管理運営している教育プログラムを意味する。IB の教育プログラム実施が認定された学校は IB 認定校と呼ばれている。IB 認定校に典型的なように、グローバル化された学校では、新しいカリキュラムの導入などの変革を遂行し、世界的な動向も考慮するなど、積極的で高度なマネジメントが求められる。本研究では、これを「グローバル学校マネジメント」と呼ぶ。仮説的に言えば、「グローバル学校マネジメント」は、校長の世界的視野、新しいプログラム導入のための変革力、国を超えた連携、異文化理解、社会正義、未来予測、などの新たな要素から構成されるだろう。だが、「グローバル学校マネジメント」の特徴の記述と理論化は、内外の先行研究において未開拓である。オーストラリアは多民族国家であり、国際感覚に優れた国の一つである。そして、オーストラリアは、IB も日本よりも歴史的に早い時期に導入され、グローバル化された学校として興味深い対象国である。日本とオーストラリアの比較を通して、グローバル化された学校の実態と課題を明らかにしようと試みた。以上の問題意識から、「グローバル化された学校のマネジメントに関する日豪比較研究―IB 認定校に着目して―」という主題を着想した。

２．研究の目的

本研究は、グローバル化された学校におけるマネジメントのあり方を、日本とオーストラリアの比較分析を通して解明することを目的とする。本研究では、教育の国際化を進めている学校を対象に、特に IB 認定校を中心的な事例として調査・分析を行う。研究の目的を達成するための研究課題（リサーチクエスチョン）は次の 4 点である。日本とオーストラリアの国際化を進める学校では、①校長は、どのようなシステムの下で国際化を推進しているのか、②校長は、どのようなビジョンと経営計画に基づいてリーダーシップを発揮し、教育の質を高めているのか、③校長は、どのように教員評価と学校評価を行い、教育成果を検証しているのか、④日本とオーストラリアの比較を通して、グローバル化された学校におけるマネジメントのモデルはどのように開発できるのか。

３．研究の方法

学校マネジメントのシステムについて調べた上で、インタビューガイドをもとに、日本とオーストラリアの学校の校長に半構造化インタビュー調査を行う。そこで語られた内容をもとに、「グローバル学校マネジメント」を解明する。さらに、学校経営のプロセスなどを多面的に把握するため、可能な場合には、校長だけでなく、教諭、保護者、生徒にも聞き取りを行う。ただし、保護者、生徒は国内調査に限定して対象とする。得られたデータをもとに、学会発表や論文執筆を行う。

４．研究成果

(1)　先行研究の動向について

グローバル化された学校におけるマネジメントに関する先行研究を収集し、検討した。その結果、IB 認定校の学校マネジメントの研究は、IB の概念や教育方法を視点としてそれとの関連で論じられていることが分かった。一方、国際化を進めた学校を対象とした研究は殆どないことも明らかになった。今後、世界標準的な学校マネジメントの研究方法を活用し、IB 認定校やそれ以外の学校におけるグローバル化された学校におけるマネジメントの研究を行うことに意義があることが明らかになった。

(2)　オーストラリアの IB 認定校の調査について

オーストラリアの IB 認定校に訪問調査を行った。校長への聞き取り調査で明らかになったことは、校長が児童生徒を大切にし、児童生徒と交流する理念と行動を持っていること、詳細な経営計画を設けていること、教職員との良好な人間関係を持っていること、グローバル化が重要であると考えていることである。また、IB コーディネーターの役割が大きいことが指摘された。そこで、IB コーディネーターにも聞き取りを行った。IB コーディネーターは、IB に関する豊富な知識を持ち、グローバル化についても重要性を認識している。このほか、オーストラリアでは、IB 教員の養成を担当している大学教員にも聞き取り調査を行った。その結果、IB 認定校の質は学校間で多様であること、校長がグローバル化について深く理解していることが非常に重要であることが指摘された。このほか、IB 認定校以外のグローバル化に力を入れている学校にも訪問調査を行った。そこでは、学校経営計画、実施、学校評価のサイクルが展開しており、多文化共生に力を入れていた。IB 認定校とそれ以外の学校を比較すると、IB 認定校ならではの職である IB コーディネーターの役割が大きいことが明らかになった。

(3)　日本の IB 認定校の校長等の調査について

日本の公立の新設 IB 認定校を事例として調査を行った。校長への聞き取り調査で明らかになったことは、校長が IB を重視し、生徒の主体性と公共性への貢献を育成しようとしていること、教育委員会と良好な協力関係を維持していること、戦略的な経営計画を設けていること、教職員を信頼し、任せていること、生徒との交流を重視していること、グローバル化が重要であると考えていることである。また、IB コーディネーターの役割が大きいことも明らかになった。この IB 認定校の特徴について深く調べるために、その前身となる学校経営との連続性も調査した。その結果、前身校においても、生徒の主体性と自治が尊重され、国際化が尊重されていたことが分かった。興味深いことに、この IB 認定校には、前身校の影響が見られることが分かった。すなわち、部活動、生徒会活動において、前身校の校風を引き継ぐことが重要であると、生徒の間で認識されている点が興味深かった。この要因として、前身校と IB 認定校は、前身校の最終年度と IB 認定校の開校年度の一年間同じ校地に同居しており、一部同じ建物を併用していたことがあげられる。また、生徒同士の交流会があったことも要因としてあげられる。このほか、IB 認定校以外の学校改善に力を入れている学校にも訪問調査を行った。そこでは、学校経営計画、実施、学校評価のサイクルが展開しており、探究的な学習に力を入れていた。IB 認定校とそれ以外の学校を比較すると、IB 認定校ならではの職である IB コーディネーターの役割が大きいことが明らかになった。また、IB 認定校では、IB のカリキュラムの実現が強く意識されている点が特徴的であった。

(4)　日本の IB 認定校に関するマルチパースペクティブ方法の調査について

国内の公立 IB 認定校の校長と IB コーディネーターのリーダーシップの事例研究を行った。その際、マルチパースペクティブ方法の調査に基づき、校長と IB コーディネーターへの聞き取りだけではなく、教員 5 名、生徒 2 集団（4 名×2 集団）、保護者 2 集団（4 名×2 集団）、学校評議員（2 名）への聞き取りを行った。さらに、学校の全教職員に対する質問紙調査を行った。その結果、次の知見が明らかになった。第一に、校長は、グローバルマインドの育成を重視しており、カリキュラムや授業研究に関しては、IB コーディネーターに大幅に職務を委任していた。IB コーディネーターを信頼して協力していた。校長は教職員の人事を課題として認識していた。すなわち、IB の教授資格を持つ教員を恒常的にどのように確保するかという点の懸念であった。第二に、IB コーディネーターは、IB の理論や教育学に関する知識が豊富であり、どの教科の内容や方法にも専門的な力量を持っていた。教員からの信頼は厚いが、IB コーディネーターに職務が集中しているため、非常に多忙であった。第三に、教員は、校長や IB コーディネーターの組織運営に関して高く評価していた。人柄や指導力が良好な教員が多いとの指摘があった。しかし、多くの行事や探究型の学習の準備、採点のため、教員の職務は多忙であり、懸念される状況であった。生徒は、探究型の学びをより良く理解し、学習に励んでいた。また、授業における指導法が最近改善されたことを指摘していた。保護者は、生徒の進路に対して希望と不安を抱いていた。一方、保護者は教員の力量、人柄、実践を高く評価していた。質問紙調査の結果、校長のリーダーシップに対する評価は肯定的であるが、授業等への直接の相談や助言に関してはさほど高い評価ではなかった。このように、調査の結果、IB 認定校の組織運営は長所と課題を併せ持っていることが明らかになった。

(5)　国際化を推進した高校の校長の調査について

日本における国際化を推進した高校の優れた校長の在り方を調査した。その結果、優れた校長は、①子供の成長を願う教育観、価値観を持っていること、②授業、教育活動の改善を重視しており、自ら模範となる授業を行うこと、③教諭と共に学び合い、公平な人間関係を重視していること、④人間関係の感情レベルでの信頼関係の構築を尊重していること、⑤未来の教育改善について国際的なビジョンを持っていること、⑥地域社会や外部の専門家とのネットワークを有し、活用していること、⑦教育委員会とも良好な関係を築いていることが明らかになった。さらに、重要な点は、この研究で得られた上記の知見が、海外の優れた校長と類似していることである。ただし、相違点も見出された。それは、エビデンス・インフォームドの観点が、諸外国（オーストラリアを含む）では重視されているが、日本ではあまり重視されていない点である。この点に、今後の日本の学校マネジメントの課題があると言えよう。

(6)　グローバル学校マネジメントについて

本研究では、IB 認定校や国際化の特色づくりを進めた学校では、校長に国際的な見識が見出された。そして、それが学校ビジョンやリーダーシップに反映されていることが明らかになった。カリキュラムの変革、世界的な動向の考慮といった積極的で高度なマネジメントは、事例研究の結果から明らかになり、研究の当初に仮説として提示した「グローバル学校マネジメント」は存在していたと言えよう。当初、この観点から、オーストラリアの校長の方が、日本の校長よりも先進的と想定していたが、実際には、日本の校長も優れており、両国の間には相違点は認められなかった。このような観点からの研究は国内ではほとんどなく、海外でも少ないことから、本研究の学術的意義は大きいと言えよう。本研究の知見は、グローバル化時代における校長研修や校長の力量の在り方に示唆を与えられるため、社会的意義も有すると言えよう。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 佐藤博志	４．巻 63
２．論文標題 ポスト/ウイズコロナの教育経営はどうなっていくのか ―公立学校の事例研究から考える―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 日本教育経営学会紀要	６．最初と最後の頁 126,128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 佐藤 博志; 植田みどり; 貞広斎子; 末冨芳; 高橋望; 照屋翔大; 西野倫世	４．巻 63
２．論文標題 アメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドの学校管理職スタンダード― 各国の特徴と日本の課題―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 日本教育経営学会紀要	６．最初と最後の頁 170,181
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Hiroshi Sato	４．巻 2
２．論文標題 Successful Leadership by a Japanese High School Principal: A Case Study	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Global Perspectives on Education Research (World Education Research Association)	６．最初と最後の頁 196-216
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4324/9781003147145-12	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　1件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 佐藤博志
２．発表標題 オーストラリアの後期中等教育修了資格試験制度―大学入試の観点をふまえた国際比較を通して―
３．学会等名 オセアニア教育学会第25回大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 佐藤博志
２．発表標題 高等学校の経営プロセスに関する事例研究―IB認定校の前史と「集合的記憶」―
３．学会等名 日本国際バカロレア教育学会第5回大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 佐藤博志
２．発表標題 クリエイティブな教師 ―社会の変容と新しい教師の専門性をめぐって―
３．学会等名 言語文化教育研究学会（招待講演）
４．発表年 2020年

〔図書〕　計1件

１．著者名 Hiroshi Sato	４．発行年 2022年
２．出版社 Routledge	５．総ページ数 18
３．書名 School Governance in Global Contexts: Trends, Challenges and Practices (Education Governance and Principal Leadership in Japan, Book Chapter)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関

中国	East China Normal University			
オーストラリア	Monash University			
英国	University of Nottingham			